

■第2回 HIT-ENU 科学フォーラム開催

2019年9月24日(火)～25日(水)の2日間、八戸工業大学を会場として「第2回 HIT-ENU 科学フォーラム」が開催されました。1日目の24日は、長谷川学長、ジュスベコフ名誉教授による基調講演をはじめとする各教授による学術講演や本校大学院生によるポスターセッション等が行われ、2日目の25日には、株式会社技研や青撫山トンネル工事現場の見学会等が行われました。私たち社会基盤工学専攻する学生は、両日参加させていただいたことで、海外大学教授や研究者との学術的交流を図ることができ、貴重な体験となりました。

特にポスターセッションでは、私たち学生が行っている研究に関して研究者としての意見や世界からの観点での質問をいただき、新たな知見を得るとともに今後の研究に対するモチベーションが向上したと感じています。この度、このような有意義で貴重な場を設けてくださいました長谷川学長はじめ指導教員、関係者の方々にお礼申し上げます。有難うございました。(M1 佐竹)

■大学院博士後期・前期課程が充実

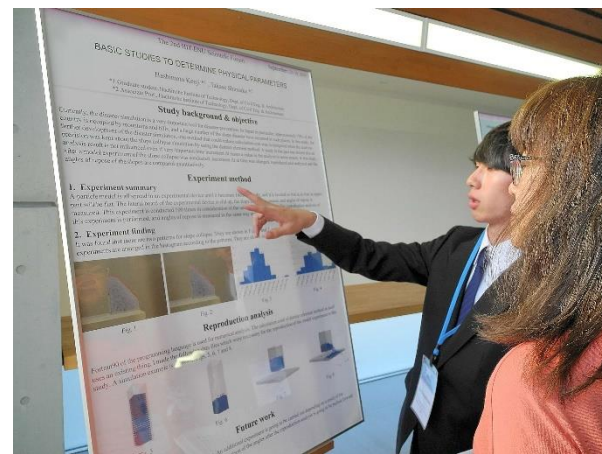
現在、社会基盤工学専攻には博士後期が2名、博士前期が5名の計7名が所属しています。来年度はさらに人数が増える予定で、今後も活発に活動していきたいと思っております。それでは、大学院生の研究内容を紹介します。

- ・ Meng Zhang (博士後期・維持管理工学研究室)
「寒冷地域における高耐久コンクリートに関する研究」
- ・ Yan Hua Kuang (博士後期・コンクリート工学研究室)
「硬化コンクリートの耐久性に及ぼす表層品質および表面含浸材塗布量の影響」
- ・ 小笠原 亮介 (青森県立八戸工業高等学校出身) (博士前期・地盤工学研究室)
「ジオシンセテックス補強防潮堤の安定性に関する研究」
- ・ 佐竹 伸子 (山形県立荒砥高等学校出身) (博士前期・防災・構造工学研究室)
「ペリメーターゾーンの熱効率向上の一考察」
- ・ 重谷 征治 (和歌山県立紀北工業高等学校出身) (博士前期・コンクリート工学研究室)
「凍結融解時のコンクリート内部圧力とスケーリングの関係性」
- ・ 橋本 憲二 (青森県立八戸北高等学校出身) (博士前期・構造工学研究室)
「流木滞留による橋梁への影響に関する基礎的研究」
- ・ 堀合 紳弥 (岩手県立宮古工業高等学校出身) (博士前期・計画学研究室)
「水災害被災経験が浸水想定区域住民の防災意識に与える要因の解明」

(M1 橋本)



発表する大学院生 (左：佐竹さん、右：橋本君)



大学院生が参加発表した第2回 HTI-ENU 科学フォーラムでの集合写真

■佐々木幹夫先生の最終講義および囲む会の案内

本学の開学時から長年に亘り勤務され、学科の歴史を創ってこられました佐々木幹夫先生が今年度で退官されます。多くの卒業生を社会に送り出し、また、国や県などの土木事業に多大なる貢献をされました。

先生の長年のご尽力に敬意と感謝を込めて最終講義と囲む会を次の様に開催いたします。

<日時> 令和2年 1月 22日(水)

最終講義： 「北東北における水工学研究の発展に向けて」(仮題)

(時間) 14:30-15:30

(場所) 八戸工業大学多目的ホール

囲む会： 受付 17:30 開宴 18:30 場所：八戸プラザホテル

~~~~~

**発行：八戸工業大学 工学部 土木建築工学科  
 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻**

〒031-8501 八戸市大字妙字大開 88-1  
 TEL: 0178-25-8040 FAX: 0178-25-5018

<http://www.cea.hi-tech.ac.jp/index.html>

■令和元年 土木学会全国大会で発表

香川大学幸町キャンパスにて9月3日から5日に渡って開催された令和元年度土木学会全国大会に、社会基盤工学専攻2年小笠原亮介と同専攻1年堀合紳弥の2名で参加し、小笠原は「機械学習を用いた凍結融解作用を受けるセメント改良土の微視的内部構造劣化の定量化に関する基礎的検討」、堀合は「防潮堤が及ぼす住民の防災意識と避難行動への影響」というテーマで研究発表を行いました。発表後には他大学の先生や、関係企業の方々から多くの質問を頂き、今後の研究発展に向けた貴重な機会となりました。今回が初めての学会発表となり緊張もありましたが、精一杯発表することができ、大学院での研究活動を進めていく上で良い経験ができたと思います。今後も国内外での学会発表や聴講から知識と知見を得ていきたいと思っております。(M1 堀合)

